

文学部 国文学科（3つのポリシー）

教育の理念

国文学科は、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則って、複雑な現代社会に対応できる幅広い基礎教養と、国語学・国文学・漢文学に関する専門的な知識の習得と実践的な読解力・分析力の養成を目的とする。すなわち、文学を成り立たせている日本語そのものの研究を行う国語学、上代から現代までの日本文学を研究する国文学、様々な思想とその多様な表現方法を学ぶ漢文学を三つの柱として、十分な基礎力・実践力を身につけ、多様な経験を踏まえ主体的に行動できる力を備え、しなやかで折れない心を持ち、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を行う。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国文学科は、教育の理念に基づいて定められた以下の4つの能力を身につけ、所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、「学士（国文学）」の学位を授与する。

（DP1）建学の理念を実践する力〔主体性・多様性・協働性〕

「仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連させて行うことができる」という駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、国語学・国文学・漢文学に関する基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題解決の能力を有している。

未知の物事にも積極的に挑戦し、実現に向けて粘り強く行動することができる。また、長期的な視点で自らの将来を計画・実行し、キャリアを通じ、社会に貢献する意欲がある。

（DP2）幅広い教養と専門知識〔知識・技能〕

文理を問わない幅広い教養・知識（数理・データサイエンスに関する基礎的な知識・技能を含む）及び国語学・国文学・漢文学に関する専門分野の知識・研究方法を体系的に身につけている。

（DP3）課題解決力と表現力〔思考力・判断力・表現力〕

修得した知識・技能やICT（情報通信技術）を活用して、自ら課題を発見、情報収集・分析を行った上で、専門分野の知識を活かした解決策を見出すことができる。

作品や文献資料の調査と読解分析を反復練習することを通じて、膨大な情報の整理と分析の方法を学び、その能力を鍛える。国文学科が求める文章読解力・文章作成力・プレゼンテーション能力を身につけ、自らの考えや主張をわかりやすく、かつ効果的に表現することができる。

（DP4）多様な他者を尊重し協働する力〔主体性・多様性・協働性〕

良好な人間関係を築くために必要な傾聴力・対話力・共感力を身につけている。

リーダーシップやフォロワーシップを適切に発揮し、国語学・国文学・漢文学に関する専門分野の知識を活用しながら、他者と協働して課題解決に取り組むことができる。

国語学・国文学・漢文学に関する基礎的知識を背景に、国内外の多様な文化・価値観を理解・尊重し、グローバル社会に必要とされる国際感覚やともに支え合う共生意識を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学習評価の観点							
			知識	技能	思考力	判断力	表現力	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を 実践する力						◎	○	○
	DP2	幅広い教養と 専門知識	◎	◎						
	DP3	課題解決力、表 現力			◎	◎	◎			
	DP4	多様な他者を 尊重し、協働す る力						○	◎	◎

※学習評価の観点は、中央教育審議会『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—（答申）』に定義された「学力の三要素」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部国文学科は、教育の理念に基づいた教育を実践し、学生が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた4つの能力を身につけることを目的とし、文理横断的かつ専門的な教育を学士課程のカリキュラムとして構築する。国文学を学ぶ上で必須の知識である仏教への理解を深め、また人文・社会・自然・ライフデザインにわたる幅広い教養分野を習得し、複雑な現代社会に柔軟に対応できる総合的・基礎的な力を養う。その上で、文学を成り立たせている日本語そのものの研究を行う国語学、上代から現代までの日本文学を研究する国文学、様々な思想とその多様な表現方法を学ぶ漢文学を三つの柱として、古来日本人が育んできた研ぎ澄まされた感性を身に付け、人間への深い洞察力や、論理的な思考力を有する人材を養成することを目的とする。

また、駒澤大学アセスメント・ポリシー（評価の方針）に基づき学生の学修成果の可視化を行い、そこで得られた評価結果を検証し、全学的に教育課程や教育方法の改善を図る。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「宗教教育科目」は、仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする。
- 2) 「教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）」は、多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養することを目標とする。
ライフデザイン分野「初年次教育科目」は、高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につけることを目標とする。
ライフデザイン分野「キャリア教育科目」は、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力の育成を目標とする。
- 3) 「外国語科目」は、社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深めることを目標とする。
- 4) 専門基礎教育として、1年次に必修科目を置く。高校で習得した国語力を確認し、大学での専門教育への橋渡しとする「日本語文法入門」、2年次以降の専門教育への導入として、国語学・国文学・漢文学の基礎的な知識、研究方法、問題の発掘の仕方などを学ぶ「基礎国語学」、「基礎国文学Ⅰ・Ⅱ」、「基礎漢文学」を開講する。
- 5) より専門性の高い講義科目「国語史」・「国語学史」、「国文学史Ⅰ」、「国文学史Ⅱ」（選択必修として各4単位、計12単位）を通して、幅広い見通しを持てるようにする「〇〇研究」、「〇〇特講」（それぞれ選択必修として各4単位、計8単位）により、各領域・各時代の特殊な内容を学び、自らの専門分野の知識と問題意識をさらに高める。
- 6) 2～4年次にかけて、少人数クラスによる演習科目（ゼミ）を組み合わせることで、専門発展教育を行なう。問題提起、分析と読解、討論、論述を実践的にこなすことにより、自立的で自主的な学習態度を徹底させ、自らの見解を論理的に構築できるよう育成を目指す。
- 7) 3年次までの学修をもとにし、より限定された専門分野を深く考究し、卒業論文として成果をまとめる。専門的な調査・研究・資料作成・発表の成果を形にする。

2. 教育方法

- 1) 「仏教と人間」は、共通のシラバスに基づいて講義が行われ、その中に「坐禅」の実習を含めることで、禅の精神に触れる機会を設ける。
- 2) 演習においては、探究型学修やアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。大人数になりやすい講義科目においても、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行う。
- 3) 演習科目（ゼミ）では、原則として少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行う。
- 4) eラーニングシステム等の Web システムを活用することで、学生が授業時間以外に主体的に学修する時間を増やし、担当教員と学生の密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深め、単位の実質化を図る。
- 5) 基礎的な必修科目や複数開講されている同一名称の科目（演習を除く）では、ルーブリックなどを用いて成績評価の観点と成績評価基準を明確にする。教員と学生との間で評価内容・評価方法の認識を共有し、科目の成績評価基準の標準化を行うことで、成績評価の公平性、客観性、厳格性を高める。
- 6) アセスメント・ポリシーに基づいて、学生調査・アンケートや学修成果を測定するアセスメント・テストの結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を学科の教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。 ○：重点を置いている。

分野区分		DP1	DP2	DP3	DP4	各科目群のねらい	
全学共通科目	宗教教育科目	◎			○	仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。	
	教養教育科目（人文・社会・自然・ライフデザイン分野）		◎	○	○	多角的な知識と深い教養を体系的に身につけることによって、公正な判断力を有する豊かな人間性を涵養する。	
		初年次教育科目			◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
		キャリア教育科目	○			◎	社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につけるとともに、長期的な視点で将来設計を行い、社会に貢献することのできる能力を育成する。
	外国語科目		◎		○	社会人に求められる十分なレベルの外国語運用能力を身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める	
専門教育科目	導入教育科目		◎	○		専門分野で4年間学ぶために必要な基礎を身につける。	
	講義科目		◎			専門分野の知識を体系的に身につける。	
	演習科目			◎	○	少人数クラスで担当教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。	
	卒業論文	○		◎	○	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文の作成や資格試験の受験などを行う。	

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

国文学科は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 国文学科が求める学生像

（AP1）駒澤大学建学の理念への理解〔主体性、多様性、協働性〕

- ・仏教と禅の精神を建学の理念とする本学に対して理解を示し、多様な知的好奇心を抱き、柔軟な視点・発想を有して自らの関心を掘り下げようとする意欲を持つ。
- ・日本の文学作品や文化に関心を抱いて日頃から読書に慣れ親しみ、言葉や人間に対する理解を深めようとする。特に、国語学・国文学・漢文学に強い関心を持ち、それを支える幅広い知識・読書経験などを有している。

（AP2）入学前に修得することが望ましい教養〔知識、技能〕

- ・高校までの履修課程において習得した知識、特に、現代文・古典の諸分野における基礎的な学力を身につけている。

（AP3）課題解決へのアプローチ〔思考力、判断力、表現力〕

- ・日本の文学・文化について考察を深め、その成果をまとめ上げて発表報告する表現力を持つとともに、討議などが支障なくできるよう、他の人との関わり合いの中で基本的なコミュニケーション能力を身につけている。

（AP4）他者と協働する力〔主体性、多様性、協働性〕

- ・日本の文学・文化に主体的な関心と学修意欲を持つとともに、さまざまな国の文化・社会の多様性を認識・尊重し、自らと異なる考えを持つ他者と協働することができる。

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

1) 入学前に修得することが望ましい教科

- ・高等学校における「国語」において、国語学・国文学（古典・現代文）・漢文学に関する基礎的知識と教養を習得している。

2) 取り組むべき活動や学習習慣

- ・漢字を調べ、意味を理解し、正確に書けるようにする。
- ・語彙力をつける。
- ・文章が正確に読めるようにする。
- ・古文単語、古典・近現代を通じた文学史、文法に関する基礎的な知識を身につける。
- ・国語の教科書で学習する文学作品以外にも日本、世界の文学作品に触れる。
- ・文学作品以外の文章、社会の出来事に関わる新聞記事や本にも関心を持って、数多く読んでおく。
- ・日常的な言語生活の中で言語感覚を身につけ、表現力を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。
- ・異なる文化や社会背景を持つ人々を理解し、協力して活動することに努める。

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

選抜区分		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	選抜制度の目的および特徴
一般選抜	全学部統一日程	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
	T方式	筆記試験		◎	○		
	S方式	筆記試験		◎	○		
大学入学共通 テスト利用選抜	前期	筆記試験		◎	○		大学での学修に必要な基礎学力を有している、特に知識に優れた学生の受け入れを目的に教科の筆記試験にて判断する。
総合型選抜	自己推薦選抜（総合評価型）	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的に、出願書類、小論文および面接・口頭試問にて判断する。
		小論文等	◎	◎	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
学校推薦型選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	附属高等学校推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学力・人物とも良好な学生の受け入れを目的に、出願書類および面接・口頭試問にて判断する。
事前課題			◎	○			
その他選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、実社会での豊かな経験を有し、高い専門性を取得した勉学意欲旺盛な社会人の受け入れを目的に、出願書類、小論文等、筆記試験等および面接・口頭試問にて判断する。
		筆記	◎	◎	◎	◎	
		英語		○			
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れを目的に、出願書類、事前課題および面接・口頭試問にて判断する。
		事前課題		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れを目的に、出願書類、「日本留学生試験」結果、小論文等、および面接・口頭試問にて判断する。
		日本留学試験（成績）		○			
		小論文等		◎	○		
		面接・口頭試問	◎	○	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を理解し、大学入学後の進路変更や学び直しを希望する学生、および多様な経験を有する学生を受け入れることを目的に、出願書類、小論文等、英語試験および面接・口頭試問にて判断する。
小論文等			◎	○			
英語			◎				
面接・口頭試問		◎	○	◎	◎		